

点検の不動産利活用

第30回

一般財団法人 日本不動産研究所

我が国において、近代化を支えた重要拠点の一つが北九州市である。今日では、これまでの歴史から多くを学び、発展の裏側で負の遺産と称される公害の克服を原点に、着実な取り組みが評価され、18年4月にはOECDよりアジア地域で初めて「SDGs推進」に向けた世界のモデル都市に選定され、同年6月には国より「SDGs未来都市」および「自治体SDGsモデル事業」に選定された。北九州市は、今や「環境都市」のトップランナーとして、その

栄光は、同時に大気汚染や水質汚濁等の深刻な公害をもたらした。身をもって体験することとなった恐ろしい公害に對し、市民が立ち上がり、その後、産・官・学と連携して克服した経緯は、北九州市が力を注ぐエコ産業に脈々と引き継がれている。

環境分野では、汚染の抑制や化石燃料に依存しない、もしくは効率的に消費するテクノロジーがエコ技術の主流であるが、北九州市にはそのいずれもが備わっている点が強みである。

歴史は繰り返され、現代、急成長を続けるアジア諸国でも同様の公害問題が発生している。そして今、北九州市が克服したノウハウは、商品となって国際協力や水ビジネスなどに代表される新たな環境

工業都市であったかつての公害克服のノウハウを生かす

福岡県北九州市

「環境未来都市」の先陣に

国際ビジネスにつながり貢献している。

また、最先端を自負するものづくりの系譜は、エネルギー技術の研究にも生かされ続けている。一例にすぎないが、響灘地区には実証実験を行うエコタウンセンターのほか、メガソーラーやバイオマス発電の拠点がある。中でも立ち並ぶ風力発電の光景は美に見えが、この9月に同地区で整備している基地

市が標榜するSDGs未来都市に関して、まだまだ浸透していない面がある。ただし、上記公害の克服や面倒を強いられつつも無意識にリサイクルに一役買ってきた市民は何にも増して心強い存在であり、ESD（持続可能な開発のための教育）にも積極的

取り組んでいることから意識の醸成も着実に進んでいる。

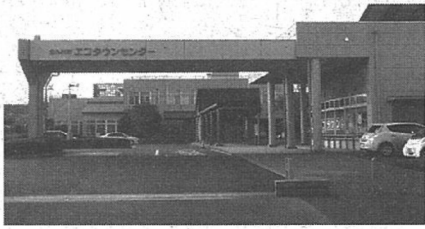
より魅力的な都市へ
持続可能な視点に立ち、上記取り組みに加え、北九州市

の魅力を一言で表現するならば「適度に都会で住みやすい」といった言葉がしっくりくる。物価が安く、政令市の中でも高い出生率を誇り、子育てでも高い評価を得ている。また、高齢者にとっても医療・介護の体制が整っており、環境のみならず人にも優しい街である。

一方で、北九州市は全国屈指の人口減少に直面しており、市勢に関わる問題となっている。転出も多く、ここで忘れてならないのが、エコロ

ジー（環境）と対比されるエコノミー、つまり経済である。安定的な雇用や賃金水準など、人が定住する上での生活基盤を堅固なものにする

ことにより、より魅力的な北九州市の持続的な発展が期待される。（北九州支所、不動産鑑定士・松尾春仁）



④エコタウンセンター
①風力発電のための風車が立ち並ぶ。



②風力発電のための風車が立ち並ぶ。



北九州市小倉北区の商店街「魚町銀天街」に掲げられたSDGsの横断幕。市民の意識醸成は着実に進んでいる